

臨床に活かす！婦人科エコー

forward

腹部エコーは日常的に行う検査ですが、婦人科領域に関しては「どこまで検査を行うべきか？」「どこまで評価が可能なのか？」といった疑問をおもちの方もいらっしゃるかと思います。そこで、今月は「腹部エコースクリーニング検査において評価可能な婦人科領域の疾患」をテーマにした特集をお届けします。

1章で検査を始めるうえで知っておきたい解剖学の基礎知識・評価対象を、2章では基本走査と正常な超音波像の見え方をご解説いただきます。続く3章では、臨床検査技師が経腹エコーを行う際のテクニックや見るべきポイントについて、疾患のエコー像を提示いただきながらご紹介いただきます。4、5章では経腔エコーとMRIについて、それぞれ疾患像の見え方をご提示いただきます。

本特集が明日からの検査の一助となれば幸いです。 (編集部)

1. 解剖学の基礎知識・評価対象

2. 基本走査と正常像の見え方

3. 疾患のエコー像

- 1) 子宮
- 2) 卵巣・卵管
- 3) 急性腹症

4. 経腔エコーにおける婦人科疾患の見え方

5. MRIにおける婦人科疾患の見え方
